

みずほマーケット・トピック (2018年5月11日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は上下に激しい値動きとなった。週初7日に109円台前半でオープンしたドル/円は日経平均株価の軟調推移を受けて週安値となる108.76円をつけたが、ロンドン市場が休場となる中でドル買い優勢地合いに転じたため109円台半ばまで反発した。その後は堅調に推移していたNYダウ平均が上げ幅を縮小する展開に109円近辺まで下落した。8日は米国のイラン核合意離脱に関する発表を控えて小幅なレンジ内で推移。NY時間に入り、トランプ米政権がイラン核合意からの離脱を正式に表明すると、直後は108円台後半まで下落したがすぐに買い戻された。9日は米国がイランへの経済制裁を強化し同国の原油輸出量が減少するとの思惑からWTI原油先物が約3年ぶりとなる1バレル=71ドルの水準まで上昇。米国における物価上昇圧力が強まるとの懸念から米10年国債金利が3%を上回る展開にドル/円は109円台後半まで急上昇した。その後は米4月生産者物価指数(PPI)が予想を下回ったことから109円台半ばまで戻す場面が見られたものの、すぐに109円台後半まで反発した。10日は一時週高値となる110.02円をつけたが、米4月消費者物価指数(CPI)が総合・コアともに予想を下回ると109円台前半まで急落した。本日のドル/円は109円台半ばで推移している。
 - 今週のユーロ/ドル相場は下に往って来いの展開となった。週初7日に1.19台半ばでオープンしたユーロ/ドルは週高値となる1.1978をつけたが、独3月製造業受注が予想を大幅に下回り、さらに2月分も下方修正されると、ECBが早期に金融政策を正常化するとの見方が後退し一時1.19を割り込んだ。8日はイラン核合意を巡る不透明感からリスク回避の動きが強まりユーロ/円が下落するとユーロ/ドルは1.18台半ばまで急落。その後は反発したが、トランプ米大統領からの核合意離脱の発表後は上値重く推移した。9日はドル買いが強まったことから一時週安値となる1.1823をつけたが、株高を受けたユーロ/円の買いに1.18台後半まで連れ高となった。10日は米4月CPIの結果を受けたドル売りに1.19台半ばまで上昇、その後はユーロ/円が売られる展開に1.18台後半まで連れ安となったが、すぐに1.19台前半を回復した。本日のユーロ/ドルは、1.19台前半で推移している。

今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		5/4(Fri)	5/7(Mon)	5/8(Tue)	5/9(Wed)	5/10(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.12	109.15	108.95	109.04	109.85
	High	109.27	109.40	109.35	109.83	110.02
	Low	108.65	108.76	108.83	109.01	109.30
	NY 17:00	109.08	109.10	109.13	109.75	109.39
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1990	1.1955	1.1934	1.1868	1.1847
	High	1.1995	1.1978	1.1938	1.1897	1.1947
	Low	1.1911	1.1897	1.1838	1.1823	1.1844
	NY 17:00	1.1962	1.1922	1.1864	1.1851	1.1916
ユーロ/円	東京9:00	130.81	130.49	130.00	129.39	130.13
	High	130.92	130.57	130.11	130.47	130.76
	Low	129.90	129.96	129.24	129.38	130.03
	NY 17:00	130.48	130.07	129.49	130.04	130.38
日経平均株価	-	22,467.16	22,508.69	22,408.88	22,497.18	
TOPIX	-	1,773.18	1,779.82	1,772.91	1,777.62	
NYダウ工業株30種平均	24,262.51	24,357.32	24,360.21	24,542.54	24,739.53	
NASDAQ	7,209.62	7,265.21	7,266.90	7,339.91	7,404.98	
日本10年債	-	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	
米国10年債	2.95%	2.95%	2.98%	3.00%	2.96%	
原油価格 (WTI)	69.72	70.73	69.06	71.14	71.36	
金 (NY)	1,315.35	1,314.13	1,314.55	1,312.70	1,321.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・本邦では16日(金)に1~3月期の実質GDP成長率が発表され、前期比0.0%になると市場では予想されている。サービス消費の緩やかな増加を背景に個人消費は小幅ながらもプラス成長を確保する一方、ソフトウェア投資(実質)の減少が続く中、設備投資は堅調な増勢に一服感が出る見込みだ。公的需要は経済対策のピークアウトもあって前期からほぼ横ばいになると見られる。輸出は2017年10~12月期に高い伸びを記録したが、IT関連財輸出の低迷を受けて1~3月期は減速する公算が大きい。但し、輸入も電気機器の減少を受けて減速するため、純輸出の前期比寄与度はほぼゼロになると予測されている。各項目とも芳しい数値が出てくるとは考えがたく、1~3月期は景気拡大に一服感が出るような結果になると予想する。また、18日(金)には4月全国消費者物価指数(CPI)が発表される予定だ。既に発表されている4月東京都区部コアCPI(生鮮食品除く総合)上昇率は前年比+0.6%と3月(同+0.8%)から減速した。4月2日に中国が米国に対して報復関税を発動したことを受けて、米国産豚肉が日本市場に流入し豚肉価格が下落したことが減速に繋がった。東京都区部コアCPIと同様に4月全国コアCPIも3月(同+0.9%)から減速する公算が大きい。
- ・米国では15日(火)に4月小売売上高の発表が予定されており、前月比+0.4%(3月:同+0.6%)と3月から小幅な減速が予想されている一方、変動が激しい自動車を除く小売売上高は前月比+0.6%と3月(+0.2%)から加速が見込まれている。翌16日(水)には4月住宅着工件数の発表がある。3月は年率131.9万件と市場予想(同126.7万件)を大きく上回る結果となった。着工件数に先行する3月建設許可件数は年率137.9万件と増勢を維持しているが、一戸建て住宅の需要動向を示すNAHB住宅指数は2017年12月を境に低下傾向にあることから、4月の住宅着工件数は年率+131.8万件と3月からほぼ横ばいが予想されている。金融政策関連では、本日夜および14日(月)にブロード・セントルイス連銀総裁、14日(月)および18日(金)にマスター・クリーブランド連銀総裁、16日(水)にボスティック・アトランタ連銀総裁の講演が予定されている。

	本 邦	海 外
5月11日(金)	・4月マネーストック	・米5月ミシガン大学消費者マインド(速報)
14日(月)	・4月国内企業物価	
15日(火)	・3月第3次産業活動指数	・ユーロ圏1~3月期GDP(確報) ・ユーロ圏3月鉱工業生産 ・米4月小売売上高 ・米3月企業在庫 ・米5月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米3月TICレポート(対外対内証券投資)
16日(水)	・1~3月期GDP(速報) ・3月鉱工業生産(確報)	・ユーロ圏4月消費者物価指数(確報) ・米4月住宅着工 ・米4月鉱工業生産
17日(木)		・ユーロ圏3月貿易収支 ・米5月フィラデルフィア連銀製造業景気指数
18日(金)	・4月全国消費者物価	・ユーロ圏3月経常収支

【当面の主要行事日程(2018年5月~)】

- 米FOMC(6月12~13日、7月31日~8月1日、9月25~26日)
- ECB政策理事会(6月14日、7月26日、9月13日)
- 日銀金融政策決定会合(6月14~15日、7月30~31日、9月18~19日)
- G7財務相・中央銀行総裁会合(5月31日~6月2日)、米朝首脳会談(6月12日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2018年5月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 自動車販売台数(4月) 米国 建設支出(3月) 米国 ISM製造業景気指数(4月) 米国 FOMC(-2日)	2 日本 マネタリーベース(4月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、4月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 GDP(速報、1-3月期) 米国 ADP雇用統計(4月)	3 日本 憲法記念日 ユーロ圏 消費者物価指数(速報、4月) 米国 貿易収支(3月) 米国 製造業受注(3月) 米国 耐久財受注(確報、3月)	4 日本 みどりの日 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、4月) 米国 雇用統計(4月) 米国 失業率(4月)	
7 ドイツ 製造業受注(3月) 米国 消費者信用残高(3月)	8 ドイツ 貿易収支(3月) ドイツ 鉱工業生産(3月)	9 日本 毎月勤労統計(3月) 日本 景気動向指数(速報、3月) 米国 生産者物価(4月) 米国 卸売売上高(3月)	10 日本 国際収支(3月) 日本 貸出・預金動向(4月) 日本 景気ウォッチャー調査(4月) 米国 財政収支(4月)	11 日本 マネーストック(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月)	
14 日本 国内企業物価(4月)	15 日本 第二次産業活動指数(3月) GDP(速報、1-3月期) ユーロ圏 鉱工業生産(3月) ユーロ圏 GDP(確報、1-3月期) 米国 小売売上高(4月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(5月) 米国 企業在庫(3月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(3月)	16 日本 GDP(速報、1-3月期) 日本 鉱工業生産(確報、3月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、4月) 米国 住宅着工(4月) 米国 鉱工業生産(4月)	17 ユーロ圏 貿易収支(3月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月) 米国 景気先行指数(4月)	18 日本 全国消費者物価(4月) ユーロ圏 経常収支(3月)	
21 日本 貿易収支(4月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(4月)	22	23 ユーロ圏 製造業PMI(速報、5月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、5月) 米国 新築住宅販売(4月) 米国 FOMC議事要旨(5月1-2日開催分)	24 ドイツ GDP(確報、1-3月期) 米国 中古住宅販売(4月)	25 日本 東京都都区消費者物価(5月) ドイツ IFO企業景況指数(5月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 耐久財受注(速報、4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、5月)	
28 日本 企業向けサービス価格(4月)	29 日本 失業率(4月) 米国 S&Pコアロジックケース:シラー住宅価格(3月) 米国 消費者信頼感指数(5月)	30 米国 ADP雇用統計(5月) 米国 GDP(2次速報、1-3月期) 米国 個人消費(2次速報、1-3月期) 米国 PCEコアデフレーター(2次速報、1-3月期) ペーシュブック 米国 シカゴ購買部協会景気指数(5月)	31 日本 鉱工業生産(速報、4月) 日本 新設住宅着工(4月) ユーロ圏 失業率(4月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、5月) 米国 個人消費・所得(4月) ウィスラー(カナダ) G7財務相・中央銀行総裁会合(~6月2日)		

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2018年6月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数(5月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、5月) 米国 雇用統計(5月) 米国 失業率(5月) 米国 建設支出(4月) 米国 ISM製造業景気指数(5月)	
4 日本 マネタリーベース(5月) 米国 耐久財受注(確報、4月) 米国 製造業受注(確報、4月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、5月)	6 日本 毎月勤労統計(4月) 米国 貿易収支(4月)	7 日本 景気動向指数(速報、4月) ドイツ 製造業受注(4月) ユーロ圏 GDP(確報、1-3月期) 米国 消費者信用残高(4月)	8 日本 国際収支(4月) 日本 GDP(確報、1-3月期) 日本 貸出・預金動向(5月) 日本 景気ウォッチャー調査(5月) ドイツ 貿易収支(4月) ドイツ 鉱工業生産(4月) 米国 卸売売上高(4月) シャルルボワ(カナダ) G7首脳会議(-9日)	
11 日本 マネーストック(5月)	12 日本 国内企業物価(5月) 日本 第二次産業活動指数(4月) 米国 財政収支(5月) 米国 FOMC(-13日)	13 ユーロ圏 鉱工業生産(4月) 米国 生産者物価(5月)	14 日本 金融政策決定会合(-15日) 日本 鉱工業生産(確報、4月) ユーロ圏 ECB理事会(開催場所未定) 米国 小売売上高(5月) 米国 企業在庫(4月)	15 ユーロ圏 貿易収支(4月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、5月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月) 米国 鉱工業生産(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、6月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(4月)	
18 日本 貿易収支(5月)	19 ユーロ圏 経常収支(4月) 米国 住宅着工(5月)	20 米国 中古住宅販売(5月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(6月) 米国 景気先行指数(5月)	22 日本 全国消費者物価(5月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、6月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、6月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)	
25 ドイツ IFO企業景況指数(6月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(5月) 米国 新築住宅販売(5月)	26 日本 企業向けサービス価格(5月) 米国 S&Pコアロジックケース:シラー住宅価格(4月) 米国 消費者信頼感指数(6月)	27 米国 耐久財受注(速報、5月)	28 米国 GDP(3次速報、1-3月期) 米国 個人消費(3次速報、1-3月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、1-3月期)	29 日本 失業率(5月) 日本 東京都区部消費者物価(6月) 日本 鉱工業生産(速報、5月) 日本 新設住宅着工(5月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、6月) 米国 個人消費・所得(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、6月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(6月)	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuho.com/jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuho.com/jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年5月10日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月9日	海外企業買収と円相場について
2018年5月8日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月2日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月1日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～)
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の露払い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振られるべからず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年3月分)
2018年4月20日	週末版(日米首脳会談を終えて～「古くて新しい問題」とライトハイザー対策～)
2018年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～強まった警戒色～
2018年4月17日	日米首脳会談プレビュー～見るべきポイント～
2018年4月16日	為替政策報告書の正しい読み方～論点の整理～
2018年4月13日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明確なユーロ高懸念～)
2018年4月12日	続・残業代規制の影響～閣議決定を受けて～
2018年4月11日	ユーロ/ドル相場の値動き分析～金利差の観点から～
2018年4月10日	為替政策報告書プレビュー～中長期的に咀嚼すべき～
2018年4月9日	円相場の基礎的需給環境～米金利上昇に頼れず～
2018年4月6日	週末版(保護主義とドル安の関係性～日本に求められる交渉戦略～)
2018年4月5日	ドイツに非はないのか～貿易戦争で考える立ち位置～
2018年4月4日	想定為替レートと実勢相場の関係について
2018年4月3日	クラウドファンディング・アウトとLIBOR-OISスプレッド～新たな懸念～
2018年4月2日	外貨準備構成通貨の現状(17年12月末)～第二次多様化～
2018年3月30日	週末版(日米金利差「3%」はトリガーなのか～3つの注意点～)
2018年3月27日	ユーロ圏経済は本当に磐石なのか？
2018年3月26日	メインシナリオへのリスク点検～安直な円安予想の終わり～
2018年3月23日	週末版(FOMCを終えて～名実共に「引き締め」局面～)
2018年3月20日	ECBは来年、利上げするのか？～関係筋発言を受けて～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年2月分)
2018年3月16日	週末版(実質実効為替相場で見ると各国通貨の現状～気まずい「円」の立ち位置～)
2018年3月15日	第4次メルケル政権発足を受けて～ポスト・メルケル時代～
2018年3月13日	ドイツ/パブルを警戒すべきか？
2018年3月12日	経験則からイメージするドル/円相場の「波」
2018年3月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～現状追認とポスト・ドラギの胎動～)
2018年3月8日	通貨安競争でドルに勝てる者なし～標的になりやすい円～
2018年3月7日	ECB政策理事会プレビュー～APP「規模」拡大を排除か？～
2018年3月6日	「製造業の採算レート」から何を読み取るか？
2018年3月5日	黒田総裁発言を受けて～今だから出来るチャレンジ～
2018年3月2日	週末版(四面楚歌のドル/円相場～円高見通しの確度は高まるばかり～)
2018年2月27日	メインシナリオへのリスク点検～円高リスクとしての米金利上昇～
2018年2月26日	ECB役員会人事の読み方～今後への含意など～
2018年2月23日	週末版
2018年2月22日	FOMC議事要旨(1月30～31日開催分)～試される胆力～
2018年2月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年1月分)
2018年2月20日	2017年の対米証券投資(TICレポート)について
2018年2月19日	スタグフレーション懸念という誤解～最近の相場動向について～
2018年2月16日	週末版(本当にプレグジットは大丈夫なのか？～不穏な「第二段階」のスタート～)
2018年2月15日	ドル/円相場の水準感～円高はまだ始まったばかり～
2018年2月14日	2017年の基礎的需給環境～4年ぶりの円買い超過～
2018年2月13日	黒田総裁続投について～「戦術」よりも「戦略」の修正を～
2018年2月9日	週末版
2018年2月6日	やはり正しかったカーブのフラット化が示した不安な未来
2018年2月5日	浮き彫りになった円安見通しの「決定的に駄目な部分」
2018年2月2日	週末版(遂に到達した「利上げの終点」～米金利は頭打ちか、それとも続伸か～)
2018年2月1日	FOMCを受けて～パウエル新体制を待つ「茨の道」～
2018年1月30日	メインシナリオへのリスク点検～危うい米通貨・通商政策～
2018年1月29日	ECB政策理事会の読み方～通貨高けん制が効かない理由～
2018年1月26日	週末版
2018年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～消化試合の様相～
2018年1月23日	IMF世界経済見通し修正を受けて～米国一本足打法～
2018年1月22日	トランプ誕生1年を振り返る～「カーブフラット化と株価急騰」～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年12月分)
2018年1月19日	週末版
2018年1月18日	ECB政策理事会プレビュー～タカ派傾斜は心配無用～
2018年1月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー～最後の展望レポート～
2018年1月16日	低下する米家計貯蓄率をどう読むべきか？
2018年1月15日	4か月ぶり安値をつけたドル/円相場と需給環境について
2018年1月12日	週末版(ダウサイドリスクが広がるユーロ相場～議事要旨の強気を受けて…～)
2018年1月11日	中国の米国債購入減速・停止報道の読み方
2018年1月10日	ステルステーパリングの「お目こぼし」はここまでか？
2018年1月9日	米12月雇用統計～改善が極まりつつある米経済指標～
2018年1月5日	週末版(外貨準備構成通貨の現状(2017年9月末時点)～ユーロ比率は明確に反転～)
2018年1月4日	2018年の勘所～概観、注目イベント、キーワード～
2017年12月27日	ドル調達コストの急騰について
2017年12月26日	ユーロ圏の与信・物価環境に見る域内格差
2017年12月25日	日本人の「現金好き」と円相場の関係について
2017年12月22日	週末版
2017年12月21日	バフェット指標に見る過熱感～株価vs. 経済成長～
2017年12月20日	3度目のカシュカリ・エッセイを受けて
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年11月分)
2017年12月18日	メインシナリオへのリスク点検～米減税はドル買いとならず～
2017年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～早くも問われるAPP再延長問題～)
2017年12月14日	FOMCを受けて～パウエル議長を待つ「レールの終点」～
2017年12月13日	今一度、再確認したい円の割安感
2017年12月11日	米金利の逆イールドはいつ発生しそうか？～遅くとも19年～
2017年12月8日	週末版(円相場の基礎的需給環境～「ねじれ」構造は健在～)
2017年12月7日	株高の真因を考える～「付加価値の取り分」という視点～
2017年12月6日	6つの要人発言で振り返る2017年
2017年12月5日	テーパリングが改めて示唆するベアスマネーの無意味さ